

火星が準大接近①

～ 火星が接近 ～

2年2ヶ月ぶりに火星が接近します。前回(2018年)よりも少し遠い準大接近ですが、10月、11月と火星の見ごろが続きます。今月号、来月号と2回にわたり火星を紹介します。

火星ってどんな星？

火星は地球のすぐ外側を回っている惑星です。大きさは地球の約半分(直径:6,792.4km)で、公転周期は約1年11ヶ月(687日)です。北極、南極にはドライアイスで出来た極冠があり、1万mを超える山、オリンパス山があります。昔は水や空気があり、生命が誕生していたのでは、とも言われています。現在、探査機キュリオシティが探査をおこなっています。2020年は火星に向けてアメリカ、中国などが探査機を打ち上げました。



2つの衛星



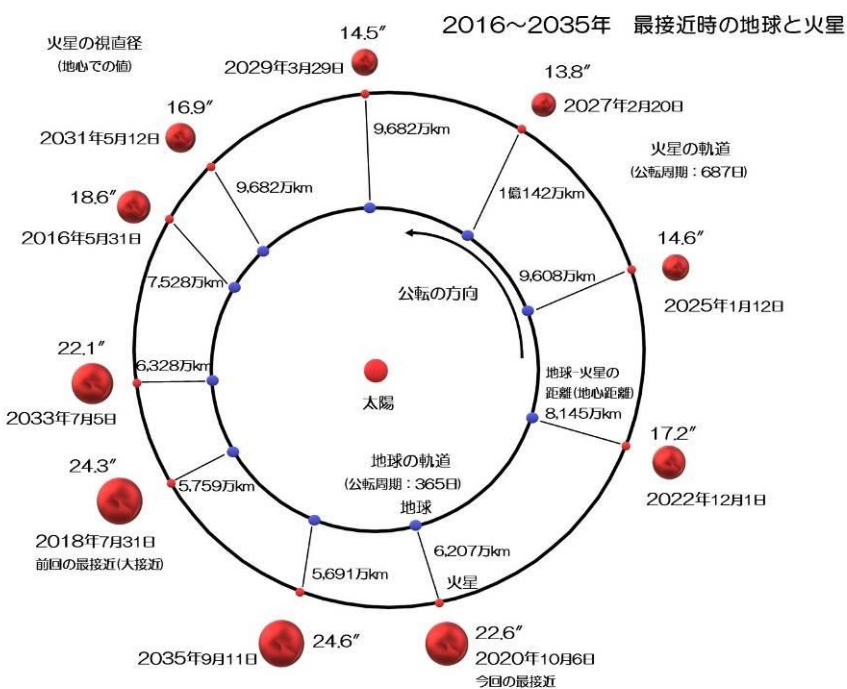
ダイモス

NASA

火星には2つの衛星があります。「フォボス」と「ダイモス」です。この2つの衛星は、アメリカ海軍天文台のアサフ・ホールによって発見されました。非常に小さくいびつな形の衛星で、いちばん大きな所でもフォボスが27km、ダイモスが15kmしかありません。火星の表面からフォボスが約6000km、ダイモスが約2万kmのところを回っています。小惑星帯にあった小さな小惑星が、火星の引力により火星を回る衛星になったと考えられています。

今回は準大接近

～ 火星の接近はなぜ起こる？ ～



地球は1年、およそ365日かけて太陽のまわりをまわっています。火星は地球の外側を687日、約1年11ヶ月かけて、太陽のまわりをまわっています。

それぞれのペースで太陽のまわりをまわると、2年2ヶ月おきに地球と火星の接近が起こります(左の図、接近前後の数ヶ月間は見ごろが続きます)。そして、火星の通り道はゆがんでいるので、接近した時の距離が変わります。そのため、火星大接近が起きるのは、15~17年に1度しかありません。今回は、前回の大接近より少し

遠い準大接近です。ちなみに次回の火星大接近は2035年です。